

2026 年 8 月 31 日

宮古島の子どもたちがロボットプログラミングに挑戦

～離島地域におけるデジタル体験機会の創出を通じ、次世代の学びを支援～

沖縄セルラー電話株式会社（本社：沖縄県那覇市、代表取締役社長：宮倉 康彰、以下、沖縄セルラー）は、2026 年 8 月 22 日、宮古島 ICT 交流センターにおいて、県内の小学 3 年生から中学 2 年生を対象としたロボットプログラミング教室「Okinawa デジタルラボ 2026 ～ロボットプログラミングチャレンジ～」を、エリクソン・ジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：安東 宏昭、ジャワッド・マンスール、以下、エリクソン）と共同で開催しました。

本イベントでは、エリクソンが提供するロボット教育プログラム「Connect to Learn: デジタルラボ・プログラム」を活用し、子どもたちがロボットの組み立てやプログラミングに挑戦しました。当日は、沖縄セルラーとエリクソンの社員がインストラクターとして参加し、子どもたち一人ひとりの学びをサポートしました。

沖縄セルラーは、離島地域の子どもたちにも先端的なデジタル教育に触れる機会を広げ、ICT を身近に感じながら学びへの関心を高めるきっかけづくりを目指しています。



開催概要

日時：2026 年 8 月 22 日（土）13:00～16:30

場所：宮古島 ICT 交流センター内 交流スペース

対象：沖縄県内在住の小学 3 年生から中学 2 年生（事前応募制/参加費無料）

内容：LEGO®のロボットを使用したプログラミング体験

参加した子どもたちは、約 20 センチ四方の車輪付きロボットを組み立て、移動する方向や距離をプログラミングで制御する方法を学びました。モーター駆動やセンサー情報を活用しながら試行錯誤を重ね、プログラムの締めくくりにはタイムレースを実施。自分で考えたプログラムによってロボットが動く楽しさや、工夫することで結果が変わる面白さを体験しました。

イベントの様子

当日は、子どもたちがグループごとにロボットの組み立てとプログラミングに取り組みました。

初めてロボットプログラミングに触れる参加者も、インストラクターの説明を受けながら、ロボットを前進・停止・方向転換させるための指示を一つひとつ確認し、課題に挑戦しました。

タイムレースでは、参加者が自分たちで調整したプログラムをもとにロボットを走行させ、思い通りに動かすために何度も改善を重ねました。子どもたちからは、ロボットが動いたときの驚きや、課題をクリアしたときの達成感が見られ、楽しみながらプログラミングの基礎に触れる機会となりました。

エリクソン・ジャパン株式会社 担当者コメント

エリクソンは、テクノロジーの力を使って社会貢献できることすべてに取り組みたいと考えています。デジタルラボを代表とするデジタル教育支援プログラムは世界中で展開しており、これまで世界 47 か国・約 67 万人の子供たちに提供してきました。もちろんデジタルデバイドの解消に寄与する離島での開催はこの取り組みにおける重要な要素です。

日本の将来を担う子供たちには、積極的にテクノロジーの世界を体験し興味を持ってもらいたいと思います。エリクソンは引き続きデジタル教育支援プログラムを通じて日本の社会に貢献していきたいと思っています。

マーケティング&コミュニケーション本部 マーケティング統括本部長 相田 桂さん



沖縄セルラー担当者コメント

子どもたちが夢中になってプログラミングやロボットづくりに挑戦する姿を見て、その可能性の大きさを実感しました。住む地域によって学びや体験の機会に差が生まれることなく、離島の子どもたちにも新しい世界に触れる機会を届けたいと考えています。

今後も地域の皆さまや企業と連携しながら、子どもたちの未来につながる体験の場づくりに取り組んでいきたいと思っています。

